

## 長井政太郎先生のご逝去を悼む

本会会員、山形大学名誉教授、長井政太郎先生は、昭和58年4月20日、慢性腎不全のため、入院中の山形大学医学部付属病院で、77歳でご逝去なされました。

先生は、大正14年山形県師範学校本科を卒業後、小学校訓導として、山形県西村山郡本郷東部尋常高等小学校に赴任されましたが、翌年の大正15年には、山形県師範学校専攻科第一回生として入学、地理学研究の道に進まれました。昭和3年1月、中等学校地理科教員免許状受領、同年4月には、東京高等師範学校研究科甲類に入学なされ、地誌学を田中啓爾先生、地形学を辻村太郎先生の下で学ばれました。昭和5年研究科修了後直ちに、母校山形県師範学校の地理学教官として迎えられました。ここで先生は幸運にも、郷土の先輩三浦新七博士（東京商科大学学長）の指導と援助を受け、県内の史料蒐集と研究に着手することになり、昭和5年、最初の論文として「最上川の水運及び輸送物資に就いて」を地理学評論に発表なされてから、お亡くなりになるまでの53年間、地理学と歴史学の研究一筋に徹し続けられ、数多くの論文と著書を発表なされました。昭和31年、「東北の聚落」をもって、東北大学より理学博士の学位を得られたが、先生の研究領域は、地理学のみならず、歴史学の分野にまで及び、集落の歴史地理学的研究、市の研究、交通史の研究、島の研究、更に山形県地誌、飛島誌、村史、町史、県史と非常に幅広いものでありました。研究にあたっては、古文書、地籍図等、原典にあたっての実証科学的研究方法を実践なされ、これまでの山形県の地理学、歴史学の研究方法を改革向上させた功績は大きく、高く評価されています。先生の蒐集なされた貴重な古文書、絵図等莫大な資料は、山形大学付属博物館、県立博物館及び長井蔵書として整備されており、今後

地域研究者のために活用されると信じています。

長井先生は昭和41年、これまでの業績がみとめられ、三浦新七博士記念文化賞、斎藤茂吉文化賞を受賞なされました。大学にあっては、付属郷土博物館長、教育学部長、評議員等の要職を歴任、更に山形地理学会会長、東北地理学会副会長として活躍なされました。昭和45年には65才の高齢にもかかわらず、山形新聞・山形放送共催による、ネパール王国学術調査隊長として、2カ月にわたって、ネパール、インド、タイ等の調査に参加なされました。昭和46年、山形大学教育学部を定年退官、その後51年まで東北学院大学教授としてお勤めになられました。退職後は、設立に努力なされた山形女子短期大学の教授として、最後まで女子教育のために尽力なされました。

先生は、いつ訪問しても心よく迎えてくだされ、私共の質問に答えていただいた。お忙しい時などは資料を筆写しながらの対応であったが、悪い顔などは一度もなさらなかった。あのお姿に接することが出来ないと思うと誠に残念であります。先生は私共教え子の心の中に長く生き続けられることを信じ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

墓所は天童市仲町の三宝寺にあります。合掌。

(榎 昭一)

### 〔本学会でのご活躍〕

1958～65年度 委員

1966～75年度 評議員